

令和8年度第1回 芳川北小 学校運営協議会

令和8年5月14日

14:00~16:00 会議室

司会：宮本、記録：佐藤

- 1 開催要件の確認
- 2 会長挨拶
- 3 校長挨拶
- 4 新規委員任命書・学校支援コーディネーター委嘱書の交付（机上传達）
- 5 自己紹介（委員、学校職員）※氏名、学校との関わりのみ簡潔に
- 6 副会長の指名（会長が指名）
- 7 浜松市学校運営協議会規則確認
- 8 議長の選出（出席した委員の中から互選）
- 9 前回会議録確認（CSディレクター：佐藤）
- 10 熟議 <議長： >
  - （1）学校運営の基本方針について（校長説明→熟議）  
（業務量管理・健康確保措置に関することを含む）
  - （2）いじめ防止基本方針について（生徒指導担当：杉浦）
  - （3）学校運営協議会の自己目標の決定（CS担当：宮本）
  - （4）夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について（教頭）
- 11 報告 <司会：宮本、記録：佐藤>
  - ① 令和8年度クラブ活動について（金山CD、本康CD、高橋CD）
  - ② 学習ボランティアについて（校長）
- 12 連絡
  - ① 次回開催日時：令和8年7月29日（水）9:00~11:00  
会場：会議室、ほっとルーム
  - ② 次回以降の議長選出
  - ③ さくら連絡網
  - ④ 学校運営協議会自己評価について
  - ⑤ クラブ活動 5/15、22、29 いずれも（金） 13:30~14:40

□ 閉会 ※閉会后 さくら連絡網の登録、写真撮影

## 学校運営協議会関係者名簿

### 学校運営協議会委員

	氏名よみがな
会長	河島 茂男 かわしま しげお
委員	村松 真弓 むらまつ まゆみ
委員	金山 康乃 かなやま やすの
委員	鈴木 俊徳 すずき としのり
委員	永田三津子 ながた みつこ
委員	栗田 美香 くりた みか
委員	高橋 由典 たかはし よしのり
委員	青木 律子 あおき りつこ
委員	本康 優子 もとやす ゆうこ

### 学校支援コーディネーター

学校支援CD	高橋 恵美 たかはし えみ
--------	---------------

### オブザーバー

南陽協働センター	袴田 唯之 はかまた ただゆき
----------	-----------------

### 学校

校長	高木 宏康 たかぎ ひろやす
教頭	滝川 宏美 たきかわ ひろみ
CS担当教職員	宮本 朋典 みやもと とものり
生徒指導担当	杉浦 秀祐 すぎうら しゅうすけ
CSディレクター	佐藤 富子 さとう とみこ

- 振り返りの充実  
視点を明確にした振り返りを行い、学びの自己調整ができるようにする。

## (2) ICTの活用

- 授業改善のための活用
  - ・ ICT活用能力のチェック表を基に目標と指導についての共通理解を図り、活用能力を育む。(年間)
  - ・ 学年、各自で効果的な活用を考え、実践し、記録する。(1学期)
  - ・ 実践を整理し、共有する。2学期以降の実践計画を立てる。(夏季)
  - ・ 夏季研修を踏まえて実践する。(2学期)
- 家庭学習における効果的な活用
  - ・ 家庭学習における効果的な活用場面を考える。(4月中)
  - ・ 実践し、効果を検証する。(1学期)
  - ・ 検証を踏まえて実践する。(2学期)
- 情報モラル
  - ・ 「情報モラル年間指導計画」を基に、学活・道徳の授業を活用して、計画的・継続的に指導する。(年間)
  - ・ タブレット型端末の使用方法について、日常的に指導を行う。(年間)

## (3) 「芳北スタンダード」の定着

- ・ 共通理解を図る。(4月)
- ・ 全職員で指導し、徹底を図る。(年間)
- ・ 成果や課題を検証し、ブラッシュアップする。(3学期)

## (4) プラスタイム、クロスタイム

- プラスタイム
  - ・ 子供の基礎学力定着のための15分の短時間学習を週6回(朝5回、昼1回)行う。
  - ・ 習熟のための演習、授業の振り返りなど、内容を各学年で検討して、計画的に行う。
- クロスタイム
  - ・ 教員の指導力向上の研修を22回(90分1回、60分21回、計45分30コマ分)行う。
  - ・ 「芳北スタンダード」に基づく授業づくり、各教科指導法、ICTの活用など、研修内容は研推で企画、運営する。(1学期分は前年度に計画済み)

## (5) その他の研修

- ・ 生徒指導事例研修
- ・ 発達支援教育
- ・ アレルギー研修
- ・ 危機管理研修 等

#### 4 研究推進委員会と全体研修

##### (1) 研究推進委員

校長、教頭、教務主任、研修主任、各学年研究推進委員

##### (2) 研修推進委員会

- ・ 研修項目や具体的内容を検討・準備する。
- ・ 校内全体研修の計画・運営をする。
- ・ クロスタイムを企画、運営する。

##### (3) 全体研修

- ・ 研修主任が中心となり、研究推進委員が計画・運営を行う。司会は研修主任とする。
- ・ 研究主題、研修の視点について共通理解を図る。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実装に向けた研修を行う。
- ・ 個別最適な学びの充実に向けた学年の取り組みの報告、協働的な学びの充実に向けた研修を行う。
- ・ ICTの効果的な活用に向けた研修を行う。
- ・ 「芳北スタンダード」の共通理解を図り、定着を進める。

(様式1)

令和8年5月15日

浜松市立芳川北小学校  
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会  
代表 高橋 由典 様

浜松市立芳川北小学校運営協議会  
会長 河島 茂男

### 夢育やらまいか事業に対する意見書(案)

令和8年5月14日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

#### 記

#### 1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

本校の学区には、様々な魅力をもった人材が多い。地域から専門的な知識・技能をもった方々をクラブ活動の講師として招聘し、活用すべきである。

⇒年間3回のクラブ活動において、地域人材が魅力を発揮することができるクラブを設置し、活動に取り組んでいく。そして、地域の方々との触れ合いを通して豊かな心を育てていく。なお、設置するクラブは以下のとおりである。  
「華道」「革細工」「リコーダーアンサンブル」「英会話」「イラスト・まんが」  
「茶道」「演劇」「自然遊び」「ドラム」「絵手紙」「ダンス」「けん玉」「鍵盤ハーモニカ」「俳句」「クッキング」「マジック」

令和8年度 浜松市立双葉小学校運営協議会 年間活動計画(予定)

回	実施日	実施時間	会場
第1回	令和8年5月14日(木)	14:00~16:00	芳川北小学校 会議室
	(1) 学校運営の基本方針について (校長説明→熟議) (業務量管理・健康確保措置に関することを含む) (2) いじめ防止基本方針について (3) 学校運営協議会の自己目標の決定 (4) 夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について		
第2回	令和8年7月29日(水)	9:00~11:00	芳川北小学校 会議室 ほっとルーム
	(1) 学年カリキュラム・マネジメントについて ・各学年の発表・説明、質疑応答 (2) 「読書に親しむ子」「SNSへの向き合い方」について ・実態や今後の取り組み (3) その他		
第3回	令和8年11月6日(金)	9:00~11:00	芳川北小学校 会議室
	※8:20~9:00 1校時 授業参観 (御都合のつく方は御参観ください。) (1) 学校評価について ・12月質問事項の検討 (2) 「読書に親しむ子」「SNSへの向き合い方」について ・成果と課題 (3) その他		
第4回	令和8年2月12日(金)	14:00~16:00	芳川北小学校 会議室
	(1) 学校関係者評価について (「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む) 自己評価(分析・改善方策)の説明⇒改善方策の確認 (2) 来年度の学校運営の基本方針の説明 (業務量管理・健康確保措置に関することを含む) 説明⇒(質疑・応答)、熟議⇒仮承認 (3) 学校運営協議会の自己評価 熟議(次年度の目標について) (4) 夢育やらまいかCS加算分の実効性 (5) その他		

第3回、第4回の開催時刻を変更しました。御承知おきください。

令和7年度 第4回 芳川北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月13日（金） 9時20分から 11時20分まで
- 2 開催場所 芳川北小学校 会議室
- 3 出席委員 河島 茂男、廣野 博子、村松 真弓、金山 康乃、鈴木 俊徳、栗田 美香、青木 律子、  
本康 優子
- 4 欠席委員 山内 佳美
- 5 オブザーバー 袴田 唯之（南陽協働センター）
- 6 学 校 高木 宏康（校長）小野 芳敬（教頭）仲山 麻由（教務主任）  
杉浦 秀祐（生徒指導主任）佐藤 富子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（学校・地域連携課）大橋 健一・前田 浩平（教育センター）
- 8 傍 聴 者 2名
- 9 会議録作成者 CSディレクター 佐藤 富子
- 10 議長の選出  
司会から、議長の選出について委員に立候補を求めたところ、栗田委員が議長に立候補し、全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項
  - (1) 学校関係者評価（「いじめ防止等のための基本的な方針について」を含む）
    - ・学校運営協議会の自己評価について
    - ・学校運営協議会の取り組みについての振り返り
  - (2) 来年度の学校運営の基本方針の説明
  - (3) 夢育やらまいかCS加算分の報告
- 12 会議記録  
司会の小野から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について、仲山より説明がなされた。

- ・徳育の公共マナー・挨拶、体育の交通ルールは先生方の評価が低い、子供たちは出来ていると答えている。先生方はどう考えているのか？（河島委員）
  - ・旗振りをしている時は、朝保護者には挨拶ができています。（栗田委員）
  - ・旗振りの時も他の時も子供たちは挨拶をしている、声に出せなくても会釈している子もいる。会釈も挨拶に入るのでは？（鈴木委員）
- まだ何のアクションもない子や避けて通る子もいる。交通ルールや公共マナーが守られてないご指摘の連絡を地域の方からいただく事もある。だから先生方から見た評価が違ってしまふ。もう少し頑張ってもらいたい希望と期待を込めて厳しい評価になったのでは。（校長）

「いじめ防止等のための基本的な方針について」杉浦より説明がなされた。

- ・具体的にどんな事があったのか？（鈴木委員）

放課後や長期休暇中などの校外でのトラブルが多い。特に SNS でのトラブルが多く、今までは中学であったようなことが、小学校でも起きるようになってきている。授業でも伝えているが、家庭との連携がより必要になっている。

(杉浦)

・SNS は学校だけでは見つけきれないし、対応しきれない。

(河島委員)

・ラインの中はすごい量のやりとりが行われているので、把握するのは難しい。子供はあまり考えず打っている言葉に相手を傷つける言葉が混じっていることがある。家庭でも伝えていかないと。

(栗田委員)

・トラブルに巻き込まれて困った時に頼れる親子関係でありたい。

(村松委員)

・いじめにならないような言葉使いを教えていかないといけない。防止に力をいれていかないといけない、防止も大切。

(河島委員)

学校運営協議会の自己評価について

河島会長より学校運営協議会の取り組みについてのまとめについて説明があり、質疑なく了承された。

(2) 来年度の学校運営の基本方針の説明について、校長より説明がなされた。

・親と地域と学校の信頼関係が大切。これからも分かりやすく説明してほしい。

(河島委員)

令和8・9年度の研究指定を受けることに関して教育センターより説明がなされた。委員からは、教育課程の柔軟化によって学びと生活の質の向上が図れるのか、しっかりと検証し、経過説明をしてほしいという意見が出された。

以上のような意見が出され、これからも家庭や地域でできることをやっていくことが了承された。

令和8年度の学校運営方針は承認された。

(3) 夢育やらまいか CS 加算分の報告

教頭より説明がなされ、承認された。

13 ボランティア活動の実践について

本康委員からボランティア活動に参加して下さった方の延べ人数等が報告された。

14 その他報告事項等

南陽協働センター 袴田

12月に家族で受けるスマホ教育を開催できました。1月19日より休館し、再開は令和10年1月14日を予定しています。

司会から、次回会議は令和8年5月14日(木)14時~16時に会議室にて開催する旨の報告があった。また、卒業証書授与式(3月17日(火)午前9時開式)が伝えられ、委員に対して参加を呼び掛け、会を閉じた。

## 令和8年度 浜松市立芳川北小学校 学校経営方針

### 1 時代の背景より

#### (1) 令和の日本型教育…Society5.0時代を見据えた取り組み

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質能力を育成することが必要。

#### 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型教育」の姿

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現

それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる（履修主義と習得主義のイイトコドリ）

#### ア 個別最適な学び

##### 指導の個別化

- ・ 支援が必要な子供により重点的な指導を行うなど効果的な指導を実現
- ・ 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供設定を行う

##### 学習の個性化

学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が、学習が最適となるよう調整する。

#### イ 協働的な学び

探求的な学習や体験活動等を通じ、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する。

一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す

#### (2) 第4期教育振興基本計画（令和7年度～令和16年度）

##### ○ コンセプト

- ・ 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- ・ 日本社会に根差したウェルビーイングの向上  
⇒ 獲得的要素と協調的要素を調和させ、一体的に向上させていく。

##### ○ 基本的な方針

- ① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ② 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③ 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

### (3) 学習指導要領

- 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- 理解していること、できることをどう使うか  
（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか  
（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

#### 社会に開かれた教育課程

- よりよい学校教育を通じて よりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有すること。
- これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成すること。
- 地域と連携・協働しながら 目指すべき学校教育を実現すること。

#### カリキュラム・マネジメント

「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

- 学校教育の効果を常に検証して改善する
- 教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる
- 地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

### (4) 第4次浜松市教育総合計画 前期（令和7年度～11年度）

#### 基本理念 『描く夢や未来の実現』

##### 3つのコンセプト

- 主体性
- 多様性・包摂性
- 信頼・協働

##### 3つの方針

- 1 自分や浜松の未来を創る人づくり
- 2 安全・安心で魅力ある環境づくり
- 3 こどもの学びや育ちを支える連携・協働

##### 目指すこどもの姿

- ・自分らしさを大切にすることも
- ・他者と協働し、主体的に行動できるこども
- ・自己調整しながら、粘り強く取り組むこども

##### 目指す教職員の姿

- ・こどもの自分らしさを受け止める教職員
- ・愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- ・専門性と指導力を磨き続ける教職員

## 2 本校の特色

### (1) 地域・保護者

本校学区は、浜松駅南東約3kmに位置し、学校の西を芳川が流れている。また、西伝寺町、頭陀寺町、本郷町、本郷東町、参野町、恩地町、都盛町の7町自治会と安松町の一部で構成されている。学区外からの通学児童も在籍している。

地域には、環境保全を活動のテーマとしている「芳川をきれいにする会」や「恩地町環境みどりの会」などがあり、子供たちに活動の場を提供してくれている。また、井伊直虎や徳川家康、豊臣秀吉にゆかりのある頭陀寺や松下屋敷跡などをはじめとして、校区内には文化財が多い。

保護者は学校に協力的であり教育活動に対し理解がある。令和4年度から開設したコミュニティ・スクールのボランティア募集(なないろパレット)の呼び掛けに対し、一定数の保護者が参加を希望し、さらなる充実を願っている。また、以前より図書館には、常時、数人のボランティアがいて、子供たちのサポートをしている。一方、支援が必要な家庭には、SSWや地区社会福祉協議会の適切なサポートが入っている。

### (2) 本校の子供たち

- 自己肯定感が高く、明るく素直な子が多い。
- 自分から同学年・他学年の友達、地域の方々等に積極的に関わろうとする。
- 指示されたことや、明確になった目標に向けて真面目に取り組むことができる。
- 外遊びを好む子供が多く、授業や行事、自分の仕事に前向きに取り組む。
- ◎ 互いの良さに気づき、認め合う態度が育ってきた。
- ▲ 話す力・聞く力・書く力のバランスの取れた定着を図りたい。
- ▲ 規範意識を向上させ、ルールやマナーを大切にすることを身に付けさせたい。
- ▲ 自己の安全や健康に対する意識を高め、自己管理能力を向上させたい。
- ▲ 基本的な生活習慣や基礎学力について、個に応じた支援を充実させたい。

## 3 教育構想

### (1) 南陽・東陽中学校区の目指す子供の姿

「自他を大切にし、高めあう子」

・笑顔の挨拶    ・規範意識    ・学ぶ喜び

### (2) 学校教育目標・目指す学校像・子供像・教職員像

◇学校教育目標

「自分らしく ともに輝く子」 令和7年度～

自分を知り、自分に合った方法で、仲間と力を合わせながら、粘り強く挑戦することを通して、描く夢や未来を実現していこうとする子供

<自分を知り、自分に合った方法>

「自分らしさ」を大切に、自分自身で目標を立て、自分の行動を振り返り、評価しながら次の行動を決定していく。(自己調整)

<仲間と力を合わせながら、粘り強く挑戦する>

他者を認め、協働しながら高め合い、自ら解決すべき課題を見つけ、試行錯誤しながらも最後まで取り組む。

<描く夢や未来を実現していこうとする>

自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、豊かな人生を切り拓いていこうとする意欲をもつ。

- 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手となる
- 自ら行動していくことで、それぞれのウェルビーイングを向上させる

◇目指す学校像

「温かみのある優しい学校」

- 自分の居場所があり、やりがいを感じる学校
- 子供一人一人の良さが発揮できる学校
- 安心・安全な学校(保護者にとっても)
- 地域から信頼される学校(開かれた学校)

◇目指す子供像

「気づく 考える 行動する」子供

物事を自分事として捉え、人・もの・こととの関わりから新たな価値に気づき、主体的に課題を見付ける。そして、既習の事柄や経験、周りとの対話などをもとに思考・判断し行動する子供

<身に付けたい力>

- 自分自身を知り、ものごとを自分事として前向きに捉える力
- 多様な人・もの・こととの関わりを深め、相手の思いを感じたり自分の思いを伝えたりする力
- 課題を見付け、様々な経験や学びを生かして解決方法を考える力
- 未来を見つめ、なりたい自分に向かって行動する力

◇目指す教職員像

「気づく 考える 行動する」職員

- 子供の変化に気づき、教師としてすべきことを考え、働きかけよう
- 子供の自分らしさを受け止め、諦めず導き、やればできる力を信じよう
- 子供とともにいられる幸せ(初心)に気づき、理想の教師像を語ろう

- 周りに同僚の支えがあることに気づき、チームとして事に当たろう
- 育成指標を意識し、自己の専門性や指導力を磨き続けよう。

(3) 教育課程の柔軟化（サキドリ研究校指定を受けて）

- ◎ 学びと生活の質の向上を図るため、創意工夫ある教育課程や指導方法を研究する
- 午前5時間日課の活用
  - ⇒ 児童の集中力が高い午前中の指導を充実させる。
  - ⇒ 支援員や教科担任教員等、午前中勤務の職員を最大限活用する。
  - ⇒ 午後の時間帯にゆとりをもたせ、必要な指導や活動をじっくりと行う。
  - ※ 授業開始・終了時刻を厳守し、規則正しい生活から児童の安心感を高める。
- 40分授業で学びの質を高める
  - ⇒ 指導内容の精選と重点化
  - ⇒ ICT活用による、主体的学びと相互交流の充実
  - ⇒ 生み出した時間の有効活用（「プラスタイム」（裁量）、「クロスタイム」（研修））
  - ※ 子供の基礎学力と教師の授業力を効果的に向上させる。

(4) 学年経営構想を軸とした取組

- 学年を軸としたカリキュラム・マネジメントの作成を通して、目指す子供の姿の具現化に向けて全教職員が共通の認識をもち、教育活動を展開する。
- 子供と共有していくための学年目標（一年後の自分の姿）を設定する。
- 学年目標を、子供たちにも分かりやすい形で過程を示し、メタ認知させる。
- 目標具現化に向けて共有するための学年経営構想図を作成し、PDCA サイクルを回しながら、目標と手立て（仕掛け）を関連付けて一つ一つの教育活動の意味を意識して実践する。
- 物事を自分事として捉え、人・もの・こととの関わりから新たな価値に気づき、主体的に課題を見つけ、既習の事柄や経験、周りの人との対話などをもとに思考・判断し行動する子供に育てたいという思いをもつ。

(5) 発達段階に応じた教科担任制の導入

- 教科担任教員が教材をじっくりと研究し、児童へ質の高い授業を提供する。
- 各教員が専門性を磨く場ととらえ、育成指標に基づく資質・能力の向上を図る。
- 児童と接する教員を増やし、多面的に児童を理解し生徒指導に生かす。
- ※ カリキュラム・マネジメントを軸として、教科指導における重点を共通理解する。

(6) 教育課題への対応

- 不登校、発達支援が必要な子供たちへの配慮
  - 「校内まなびの教室」（ほっとルーム）や「発達支援教室」（グッドルーム）の活用。
  - 担当者との情報共有や保護者との連絡を密に行う。
- 基礎基本・基本的生活習慣（挨拶 時刻 忘れ物）の定着

習熟を図るための時間を設定し、教員みんなで指導に当たる。

社会に出たときに必要なルールやマナーを、具体的な場面をとらえて指導する。

○ 教育DXの推進

Chromebookの効果的な活用と「主体的・対話的で深い学び」の関わりについて、研修を進める。

情報モラルについて各学年の実態に即した適切な指導を行う。必要に応じて、外部専門機関等の協力を要請する。

目的に応じた、効果的な生成AIの活用やデータの利活用を進める。

(7) 家庭学習についての意識改革

○ 「気づく 考える 行動する」の視点から、今必要なことを自ら考えて学習をしていく一つの場としてとらえていく。

○ 発達段階に応じて進めていくことと同時に、保護者の認識を高めていくために丁寧な説明をする。

○ ICTを活用して自己選択学習を促進させ、家庭での自分の学びを充実させる。

(8) コミュニティ・スクール (CS)

○ 学校運営協議会で学校教育方針を共有し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、地域と一体となって、学校運営の改善や教育活動の充実を図る。

○ 「なないろパレット」(人材バンク)と連携し、地域人材を積極的に活用する。

○ CSコーディネーターとの打ち合わせを行い、活動の目的や支援内容が支援者に確実に伝わるようにする。

※ 学校・地域・家庭がそれぞれの役割を理解しながら、同じ方向を見て子供を育てる。

(9) 発達支援教育を根幹に多様性に配慮した児童理解

○ いじめは絶対にしないという風土づくりを、教師が身をもって示しながら行う。

○ いじめ認知を「子供の苦痛認知」としてとらえ、子供の困り感に丁寧に寄り添う。

○ 学級の中で、困り感や弱さを出すことができる雰囲気をつくる。(包摂性)

○ 考え方やとらえ方の違いの中から生まれてくる気づきや大切なことの意味を学ぶ機会をつくる。(多様性)

○ 子供の特性や成育歴、時に家庭環境を含めた児童理解を行い、各自の「自分らしさ」を受け止める。

○ 「親はよく頑張っている。」というとらえのもと、保護者との良好な関係を保つ。

○ 生徒指導において、指導内容も含め、事実のみ、時系列を追って記録する。

○ 外国人児童等(外国につながる児童)の置かれている状況・多様な背景に配慮し、学級での居場所づくりや個別指導等、適切な支援を行う。

# 令和8年度 浜松市立芳川北小学校 学校経営構想

<第4次浜松市教育総合計画で目指す子供の姿> ・自分らしさを大切にすることも  
 ・他者と協働し、主体的に行動することも ・自己調整しながら、粘り強く取り組むことも

<南陽・東陽中学校区の目指す子供像>  
 「自他を大切にし、高めあう子」 ・笑顔の挨拶・規範意識・学ぶ喜び

## 学校教育目標 「自分らしく とともに輝く子」

自分を知り、自分に合った方法で、仲間と力を合わせながら、粘り強く挑戦することを通して、描く夢や未来を実現していこうとする子供

### 目指す子供像 「気づく 考える 行動する」子供

#### 気づく力

自分自身を知り、  
物事を自分事として  
前向きにとらえる力

#### 仕掛け

- ・安心できる学級・学校づくり
- ・振り返りの場の設定
- ・学んだことの発信

#### 仕掛け

- ・情報を獲得するための基盤づくり
- ・実態把握と目標設定の促進
- ・自己をとらえるための支援

見通す  
発見する  
興味をもつ  
疑問をもつ

#### 自己実現 に向けて 実践する力

#### 考える力

様々な経験や  
学びを生かして  
解決方法を見出す力

推測する  
計画する  
判断する  
自己調整する

#### 行動する力

多様な人や事象と  
のかかわりを深め、  
自分の考えを行動に  
移す力

提案する  
表現する  
対話する  
挑戦する

#### 仕掛け

- ・必要感高まる授業や行事の展開
- ・試行錯誤ができる場面設定
- ・話し合いや練習合いの充実

一人一人の可能性が輝く 教育課程の柔軟化

学年を軸とした カリキュラム・マネジメントで育てる  
 ～芳川北小キャリア教育～

保護者・地域と一体になって芳川北小の子供を育てる  
 ～芳川北小コミュニティスクール～

浜松市の教育基本理念 描く夢や未来の実現

## 令和8年度 校内研究構想

### 1 研究主題

「自分事として学び ともに学びを深める子」の育成  
「主体的・対話的で深い学び」の実装

### 2 研究主題について

#### (1) 研究の経過

本校では、令和4年度からカリキュラム・マネジメントを中心とした研修に取り組んできた。研修テーマを『「気づく 考える 行動する」子供の育成を目指して—1年間の育ちを見通した学年(団)カリキュラム・マネジメント—』とし、学年の実態に合わせた目標設定と手立ての連動を推進してきた。

令和7年度からは、これまでの組織的な基盤(カリマネ)を、子供の学習習慣や基礎学力の定着、主体的な学びの促進のための授業実践へと繋げるため、研究主題を「自分事として学び ともに学びを深める子」の育成とした。そして、「芳北スタンダード」の定着と ICT の活用を土台とし、国語科を窓口とした授業研究を研究の主軸に据え、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を進めてきた。

#### (2) 主題設定の理由

これから生きていく子供たちが大人になる頃には、「VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代』を迎えると言われている。予測できない未来に対応するためには、社会の変化に主体的に向き合い、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。そのためには、何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。本校では、それらの時代背景、また、第4次浜松市教育総合計画や南陽・東陽中校区の目指す子供の姿を受けて、令和7年度から学校教育目標を『自分らしく ともに輝く子』とした。そして、「自分事として学び ともに学びを深める子」の育成を図るための研修を進めてきた。

令和7年度から取り組んできた国語科を窓口とした授業研究では、児童にとって魅力ある言語活動の研究や単元構想の工夫が進む、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られるなど一定の成果が得られた。そのため、令和8年度も継続して取り組むこととした。一方で、研究主題の具現化のためには、土台となる児童の基礎学力向上と、それらを支える教員の授業力向上が不可欠であることが浮き彫りとなった。

そこで令和8年度は、文部科学省の「教育課程柔軟化サキドリ研究校」指定を受け、教育課程の柔軟化を研究の「L字の土台」として位置付ける。柔軟化によって生み出した時間を、子供の基礎学力向上の時間【プラスタイム】と教員の授業力向上の時間【クロスタイム】に充てる。また、授業改善を支える「芳北スタンダード」の定着とICTの効果的活用も、この柔軟な教育課程の中でさらに深化させていく。これらによる学びの質の向上という土台の上に、国語科を中心とした授業研究を乗せる「カタツムリ型」の研究推進をしていく。それにより、「主体的・対話的で深い学び」の実装を加速させ、「自分事として学び ともに学びを深める子」を育成していく。

### (3) 研究構想

#### ア 国語科を窓口とした授業研究

教科の本質に迫る「主体的・対話的で深い学び」の実装により、「自分事として学びともに学びを深める子」育成するため、国語科を窓口とした授業研究を行い、授業改善を図っていく。授業研究では、まず、国語科の見方・考え方を働かせる言語活動の研究をする。そして、学年で構想を工夫した単元計画を共同立案し、研究授業を行う。さらに、学びの自己調整ができるよう、振り返りの充実を図る。

#### イ ICTの活用

個別最適な学びと協働的な学びの充実のためのICT活用、振り返りの充実のためのICT活用など、授業改善のためのICTの効果的な活用を研究していく。また、家庭学習におけるICTの効果的な活用についても研究を進めていく。並行して、ICT活用の際に必須となる、情報モラルを身に付けられるよう、年間を通して計画的に指導していく。

#### ウ 「芳北スタンダード」の定着

学習を支える基盤となる、「話す」「聞く」「書く」ルールを「芳北スタンダード」とし、全職員が共通認識し、指導に当たり、定着を図っていく。

#### エ プラスタイム、クロスタイム

15分学習の時間【プラスタイム】を週6回設け、子供の基礎学力向上を図る。

授業改善のための研修の時間【クロスタイム】を22回(45分30コマ分)設定し、教員の授業力向上を図る。

### 3 研究の具体的手立て

#### (1) 国語科を窓口とした授業研究

- 国語科の見方・考え方を働かせる言語活動の研究
- 学年での単元計画の共同立案による研究授業(40分授業)

学年で単元計画を練り合い、共同で作成する。共同で立案した単元計画を使用して、研究授業を行う。単元構想の工夫としては、以下の視点を取り入れる。

- ・ 見通しと目的意識をもたせるため、学習の流れやゴールなどを明確に示す。
- ・ 学習内容や学習方法を自己決定できるようにする。【個別最適】
- ・ 判断力、思考力を養うために、試行錯誤する場面を意図的に設定する。
- ・ 学びを深める交流となるよう、視点を明確にし、形態やツールを工夫する。【協働的】
- ・ プラスタイムを活用し、学習内容に合わせた柔軟な時間の組み合わせを工夫する。

#### ア 提案授業(5月)

研究推進委員が提案授業を行い、研修の方向性を示し、共通理解を図る。

#### イ 小研究(1学期)

中研究担当学年以外は小研究を行い、学年で指導案検討、授業参観、事後研修を行う。

#### ウ 中研究(10月)

学年団で一人中研究を行い、学年団で指導案検討、授業参観、事後研修を行う。